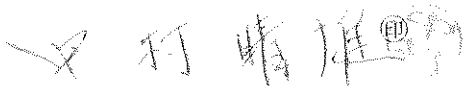


会 議 録

会議の名称	平成28年度 第1回行田市地域包括支援センター運営協議会	
開催日時	平成28年6月23日(木) 【開会：13時30分、閉会：15時30分】	
開催場所	産業文化会館 第2会議室	
出席者(委員)氏名	中村 晴雄      青木 正      堀内 規 松井 毅      新井 孝幸      加藤 利彦 園田佳代子      国司 まみね      小巻 政史(敬称略)	
欠席者(委員)氏名	なし	
事務局	健康福祉部高齢者福祉課 野辺課長、杉澤主幹、春日主査、吉野技師、伊藤技師	
会議内容	(1) 地域包括支援センター平成27年度事業報告について (2) 地域包括支援センター平成28年度事業計画について (3) 介護予防支援事業の委託先事業所承認について	
会議資料	(資料名・概要等) ○次第 ○資料一式 ・平成27年度地域包括支援センターに関する事業報告 ・平成27年度地域包括支援センター事業統計報告書 ・各地域包括支援センター平成27年度事業報告書及び平成28年度事業計画書 ・地域包括支援センターが予防給付に係る業務を委託できる居宅支援事業者について	
その他必要事項	事務局のほか、各地域包括支援センターから職員が8名出席した。	
会議の確定	確定年月日	主宰者記名押印
	28年7月4日	

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
	<p>○開会【13:30】</p> <p>○会長あいさつ（中村会長）</p> <p>○議事【13:45～】</p> <p><u>[1]地域包括支援センター平成27年度事業報告</u></p> <p><u>[2]地域包括支援センター平成28年度事業計画</u></p> <p style="text-align: right;">資料 P2～P12</p>
青木副会長	<p>P4 「地域支援ネットワーク会議」について具体的に話し合うケースはどのようなものか。</p>
事務局	<p>自治会ごとの単位で机を並べて検証するが、姿が見えない人、平成24年度から見て状況変化があった人について会議する。特に、姿が見えない人について取り上げている。</p>
青木副会長	<p>気になるケースが毎回どうなっているかを確認しているということでもいいか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
青木副会長	<p>P7 「1 総合相談・支援業務の（2）の件数」について</p> <p>延件数は減っているとのことだが、関わり過ぎないケース（関わりすぎると逆に振り回されて自立を阻害するなどケースの見極めが大事なこともある）もあるので、延件数が減っているということ自体は良いことなのだと判断できる。実際にケースを包括が行う中、包括内で終結するケースも多いと思われる。しかし、地域、社会資源との連携が求められてもいる。そのように連携をしたケースの割合は、おおよそどの程度か。例えば、医療機関のSW、ケアマネ、行政の障害担当、自立支援センターなどとの連携はあるか。</p>
まき園	<p>集計の難しさ、ということもあるが、ほとんどがサービスにスムーズにつながり終結するものがほとんどである。家族との関係性や家族の問題、単身で身内が居ないなどの場合は、障害関係につながることが多い。まずは高齢者福祉課につなげている。その中で医療との連携も出てくることもある。割合というより、件数としては</p>

	10 件程度と思われる。
青木副会長	つなげたことで終結ということにはならないか？
まきば園	生活の場が定まって、終結ということはある。
青木副会長	在宅ならばそのまま支援継続するが、施設に入所すると支援が終結する、ということか。
まきば園	はい。後は、亡くなるなど（で終結する）。
	(他機関との連携ケースの割合はこついで)
壮幸会	実感としては3割程度（統計がない）。
ふあみいゆ	壮幸会と同じく3割程度かと（統計がない）。
緑風苑	3割程度かと思われる。「1-[2] 総合相談・支援時業務の件数内訳」を見ると、市や医療機関からの情報提供や連携をとってこの数字がでているので、包括だけでなく連携しながらケース対応を行っているということ。
青木副会長	P 8の内訳は、相談の入り口（相談を受けた）ということだけでなく、包括がその後もつないだ（連携した）という解釈でよろしいか。
緑風苑	はい。
	<u>[3]各地域包括支援センター事業報告および事業計画</u>
まきば園	①地域包括支援センター <del>ま</del> まきば園
壮幸会	②地域包括支援センター <del>ま</del> 壮幸会
ふあみいゆ	③地域包括支援センター <del>ま</del> ふあみいゆ
緑風苑	④地域包括支援センター <del>ま</del> 緑風苑
	資料 P13～57

新井委員	<p>壮幸会の人員について</p> <p>4 包括の決算を確認した。まきば園は若干プラス（収入＞支出）、ふぁみいゆは若干のマイナス（収入＜支出）・・・壮幸会はスタッフが4人のところ3人だったということで、収入額が多かったが、スタッフが一人足りないままで実施している期間はどれくらいか。</p>
壮幸会	<p>昨年の10月からです。今年2月に主任ケアマネが一人入職したが、同時期に一人辞めてしまい、現在3人の体制です。</p>
新井委員	<p>翌年の事業計画も一人足りないままで計算している。一人足りないままであると地域のサービスが希薄になるという印象をもつ。早急に募集をかけて、定員を満たすようにしてもらいたい。</p>
壮幸会	<p>はい、努力したい。</p>
青木副会長	<p>今年度、一人減ったままで決算を承諾してよいのか（事務局に質問）。</p>
事務局	<p>法的に定められている地域包括支援センターの三職種は満たしている。介護予防支援事業のプランナー（ケアマネ）がいないということで、その仕事の負担が現在の三職種にかかっている状態。一応、包括の職員としては満たしている。しかし、負担がかかっていることで、総合相談や高齢者の権利擁護など他の仕事に影響を及ぼす可能性があるため、市からも法人（壮幸会）にプランナーの募集をかけるよう伝えている。現状に問題はないというより法には適合しているとみなしている。</p>
青木副会長	<p>4人で計上せず、3人で計上しても法的には問題がないということか。</p>
事務局	<p>法的には問題がない。</p>
中村会長	<p>なるべく早めに補充を進めるということで、一つ了解してもらいたい。</p>
壮幸会	<p>はい。</p>

<p>国司委員</p>	<p>機能強化型包括支援センターの認知症対策について</p> <p>要望であるが。日々、認知症の方の増加を感じる。介護する家族も認知症であることもある。機能強化型包括支援センターは全域が担当であり、推進員は一人なのか。どんな活動をするのか。</p>
<p>緑風苑</p>	<p>推進員は、事務の中で1名いればいいということであるが、うちは2名の予定。ただ、1名であってもチームがあればいいとのこと。包括としても機能強化型としてもフォローはしていく。認知症対策については全員で行ったり、あるいは他の包括と相談をしながら、もちろん、市が中心で進めていく予定である。</p> <p><u>[4]介護予防支援事業者の委託先事業所の承認について</u></p> <p style="text-align: right;">資料 P58～62</p> <p><u>閉会【15:05】</u></p>